慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	マシニングセンターの長期国内需要予測
Sub Title	
Author	野沢東(Nozawa, Azuma) 関谷章
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1980
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001980-0096

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

No. 0096

学生氏名　野沢　東

主査　関谷　章　助教授

副査　小野　桂之介　助教授

青井　倫一　助教授

所属ゼミナール　関谷　章　研

マシニングセンターの長期国内需要予測

マシニングセンターは、日本では昭和４３年に開発された工作機械である。その機能は在来の機種である、ボール盤、中ぐり盤、フライス盤の機能を有する。

石油ショック以後、企業の合理化投資の下で、ＮＣ旋盤とともにマシニングセンターの生産は急増している。しかし従来マシニングセンターの需要予測は行なわれたことがない。そこでマシニングセンターの長期需要予測は行なうこととした。

需要予測の方法としては、非旋削加工の市場の大きさの予測、そしてマシニングセンターのシェアの伸び率の予測、その結果としてのマシニングセンター生産高の動向を予測した。

非旋削加工市場として、前述３機種の過去の生産高の合計を求め、日本工作機械工業会の予測方法を用い、石油ショックの混乱期を更新延長を仮定して補正した。

市場シェアの動向としては、旋削加工分野において、マシニングセンターと同様の立場にあり、しかも普及率が数年先行していると考えられるＮＣ旋盤のシェアの動きを参考とした。その際データの不足する部分についてはアンケート調査を実施して、その結果を用いてシェア動向を補正した。

最終的には、１０年後には現在の生産高の１２～３倍となるという結論を得た。

以　上